

科目名	精神看護学概論		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (20 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 精神看護の対象の特徴及び精神保健・医療・福祉システムにおける看護の役割と機能を理解する。</p> <p>目標: 1 精神看護の意義及び精神保健・医療・福祉・看護の歴史の変遷を理解できる。 2 精神看護の対象とその特徴を理解できる。 3 精神保健・医療・福祉システムにおける看護の役割と機能を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 精神看護の目的と意義	2	1 精神看護の目的と意義 (1) 精神看護の位置づけ (2) 精神看護の目的と意義 2 精神の健康 (1) 精神の健康 (2) 心の機能		講義
2 精神看護の役割と機能	6	1 リエゾン精神看護 (1) リエゾン精神看護とは (2) リエゾン精神看護の対象と看護ケア ア 身体疾患をもつ患者 イ 看護師のメンタルヘルス支援 2 精神保健・医療・福祉チームと看護の役割 (1) 精神科チーム医療 (2) 多職種連携と看護の役割		講義
3 精神看護の対象	5	1 精神看護の対象のとらえ方 2 精神看護の対象のこころの健康 (1) 発達段階からみた対象 ア 胎児期 イ 乳幼児期 ウ 学童期 エ 思春期・青年期 オ 成人期 カ 中年期 キ 老年期 (2) 生活の場における対象 ア 家族・家庭 イ 学校 ウ 職場 エ 地域社会 (3) 災害時の精神保健 (4) 精神に障害をもつ対象		講義 DVD 視聴 「精神」
4 社会の中の精神障害	6	1 精神保健・医療・福祉と看護の歴史の変遷 (1) 諸外国と日本における精神医療の歴史 (2) 精神保健医療福祉に関する法制度 2 精神保健及び精神障害福祉に関する法律(精神保健福祉法) (1) 基本的な考え方 (2) 入院形態 (3) 精神保健指定医 3 患者の権利擁護 (1) 当事者の自己決定の尊重 (2) 入院患者の基本的な処遇 (3) 精神医療審査会		講義

試験	1	
評価方法	筆記試験	
必須資料 (テキスト)	精神看護学Ⅰ 精神保健学（ヌーヴェルヒロカワ） 看護のための人間発達学（医学書院）	
参考資料	授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。	
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、准看護師課程で学習している「精神看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。（特に精神看護の目的や意義、精神看護の対象等は、授業では詳しく説明しないので、復習や自己学習のうえ授業に臨むこと。） ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・精神看護学方法論Ⅱの基礎となる科目のため、積極的な授業姿勢を望む。 	

科目名	精神看護学方法論Ⅰ		履修年次	2 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 精神障害の主な疾患と治療を理解し、看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。</p> <p>目標: 1 精神障害の主な疾患と治療を理解できる。 2 精神に障害をもつ対象とその家族に必要な援助を理解できる。 3 精神に障害のある対象が、地域生活に移行するための支援と、地域生活を維持するための支援を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 精神に障害をもつ対象の理解	10	1 精神障害の原因・分類 (1) 精神障害の原因 (2) 精神障害の分類 2 精神障害の症状 (1) 精神症状 ア 意識障害 イ 知能障害 ウ 思考障害 エ 知覚障害 オ 感情障害 カ 意欲障害 キ 記憶障害 ク 自我障害 (2) 神経症状 ア 失語 イ 失行 ウ 失認 3 疾患の理解:症状・検査・治療 (1) 統合失調症 (2) 気分(感情)障害 (3) 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害: 恐怖症性不安障害、強迫性障害 心的外傷後ストレス障害(PTSD) 適応障害 (4) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群:摂食障害 (5) パーソナリティ障害 (6) 器質性精神障害:認知症 (7) 精神作用物質使用による精神及び行動の障害: アルコール依存、薬物依存 (8) 心理的発達の障害:自閉症スペクトラム障害 (9) 小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害: 注意欠如・多動性障害(AD/HD) 4 診断と検査 (1) 診断の基礎と要点 ア 観察(視診) イ 問診 ウ 既往歴 エ 生活歴 オ 家族歴 (2) 検査 ア 脳波検査 イ 心理検査 5 主な治療法 (1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法 (3) 精神療法:個人・集団		講義

		(4) リハビリテーション療法 ア 作業療法 イ 社会生活技能訓練:SST	
2 精神に障害をもつ対象の看護	14	1 精神看護の原則と特徴 (1) 対象の理解 (2) 患者－看護師関係の構築 2 診察・検査時の看護 (1) 診察時の看護 (2) 検査時の看護 3 主な治療法における看護 (1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法 (3) 精神療法:個人・集団 (4) リハビリテーション療法 ア 作業療法 イ 社会生活技能訓練:SST 4 セルフケアへの援助 (1) 日常生活援助 (2) 食物・水分の摂取、服薬 (3) 呼吸 (4) 排泄 (5) 清潔と身だしなみ (6) 活動と休息 (7) 対人関係 5 生きる力と強さ(に着目した援助) (1) ストレングス (2) レジリエンス (3) リカバリ (4) エンパワメント 6 安全管理 (1) 精神看護における安全管理 (2) 病棟環境の整備 (3) 自殺・自殺企図・自傷行為 (4) 攻撃的行動・暴力・暴力予防プログラム (5) 離院 (6) 隔離・身体拘束 7 主な症状・状態に対する看護 (1) 不安 (2) 幻覚妄想 (3) 抑うつ (4) そう (5) 精神運動興奮 (6) 昏迷 (7) 強迫行為 (8) 意欲減退 (9) 拒絶 (10) 操作 (11) 多飲水・水中毒	講義

		8 健康障害の特徴と経過に応じた看護 (1) 統合失調症の急性期・回復期・慢性期 (2) うつ病の急性期・回復期 (3) アルコール依存症の急性期・回復期 9 精神に障害をもつ対象を抱える家族への援助 (1) 家族の理解 (2) 家族の抱えている問題への援助	
3 地域移行支援・地域生活支援	5	1 精神に障害をもつ人の地域移行支援 (1) 地域生活への移行:生活の場づくりと日々の生活の立て直し (2) 社会参加への支援:地域での居場所づくり 2 精神障害をもつ人の地域生活支援 (1) 長期入院患者の地域生活への移行支援 (2) 訪問看護をととした地域生活支援 (3) 就労支援	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	精神障害をもつ人の看護 (メヂカルフレンド社) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 (ヌーヴェルヒロカワ)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・本科目は、准看護師課程で学習している「精神看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・本科目は、精神看護学実習につながる科目である。実習に必須の知識であるため、予習のうえ、授業に臨むこと。また、精神看護学概論を復習のうえ、授業に臨むことを推奨する。 ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・授業の後は、復習しておくこと。		

科目名	精神看護学方法論Ⅱ		履修年次	2 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人間の精神及び性の発達と心の健康の理解を深めるとともに、ライフサイクルにおける人間の心の危機状況と援助を理解する。</p> <p>目標: 1 精神の発達を理解する。 2 人間をとりまく環境と精神の健康を理解できる。 3 精神の健康を維持するための援助を理解できる。 4 ライフサイクルにおける人間の心の危機状況と危機介入を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 精神の発達と健康	14	1 精神の発達 (1) パーソナリティの成長発達 ア 自我の構造 イ 自我の機能 ウ 自我の防衛機制 (2) フロイトの発達論 (3) 自己概念 ア ボディイメージ イ アイデンティティ ウ 自尊心 (4) 自我の機能 2 危機 (1) 危機の概念 ア 危機の概念 イ 危機介入 (2) 危機と予防 (3) ストレスと対処 (4) ストレスと適応 3 環境とこころの健康 (1) 暮らしの場と精神の健康 (2) 教育の場と精神の健康 (3) 職場と精神の健康 (4) 地域社会と精神の健康 4 社会とメンタルヘルス (1) 現代社会と精神保健問題 (2) 社会病理現象 ア 危険薬物 イ ギャンブル依存 ウ 自殺 エ PTSD 5 メンタルウェルネス (1) リラクゼーション (2) マインドフルネス (3) ストレスマネジメント (4) ワーク・ライフ・バランス		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料 (テキスト)	精神看護学Ⅰ 精神保健学 (ヌーヴェルヒロカフ) 看護のための人間発達学 第5版(医学書院)			

<p>参考資料</p>	<p>・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。</p>
<p>履修上の 留意事項</p>	<p>・本科目は、准看護師課程で学習している「精神看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。</p> <p>・本科目の内容である「人間のこころの発達やこころの健康」は、看護師として働き続けるうえでも必要な知識である。人間関係論や精神看護学概論を復習のうえ、授業に臨むことを推奨する。</p> <p>・授業の後は、復習しておくこと。</p> <p>・生涯をとおしたこころの健康について学習するため、積極的な学習姿勢を望む。</p>